



かるがもの親子
～ツレイユ・葉の花・なでしこの側溝にて～

第9回 共和病院 地域医療フォーラムを終えて

老年科部長 河野 和彦

私が認知症専門医として共和病院に赴任して4年半になります。その間、認知症勉強会を10カ月周期で4回開催してきましたが今回(2007年4月21日)は共和病院地域医療フォーラムに組み込んでいただきました。従って、いままでの精神疾患主体のフォーラムに参加されてきた医療従事者の中には認知症の詳しい講演会を初めて経験された方がいたこともアンケートから伺えます。私は、いままでの勉強会のような認知症の医学的な側面から、地域フォーラムに見合った内容に脱皮して「認知症難民を出さないために医師ができること」と題した講演を行いました。参加者は183名で外部参加者のアンケート(回収率57.6%)からの評価は、ほぼ満足以上が89.5%と、好評を得られたものと考えます。私は常々認知症医療を進歩させるには、医師の批判から始めないといけなく考えていますので、当日はとくに誤診や処方副作用、医師の無関心が問題

となった事例を紹介し、そういった「難民」を救う中心はケアマネジャーであると意見を述べました。それに賛同される参加者は多く、「大府市の開業医すべてが参加して尾道方式を導入したチーム医療を確立してほしい」とか「勤務医はもっと認知症を勉強してほしい」という厳しい意見も出されました。「医師のプライドや偏見の壁は大きい。ケアマネごときが、と見られている」と悔しさをぶつけてきた方も実はおられました。

一方、後半は「認知症高齢者を支える地域での取り組みと今後の活動」と題したパネルディスカッションが行われました。当院の関口純一医師の司会のもと、ルミナス大府のケアマネジャー伊達啓子氏、当院の認知症治療病棟の鈴木博志看護課長、愛光園高齢者在宅ケアセンター長深見重夫氏が登壇され、アンケートではほぼ満足以上71.4%でした。地域について考えられたという大方の評価を得ました。



今後の開催については、認知症についてもっと行ってほしいという意見が圧倒的であり、認知症の話なら何度も聞きたいという現場の需要は相当高いことが確認できました。認知症病棟の見学希望も複数出ていました。またホームページに今回の内容を載せてほしいという意見も見受けられました。最後に印象に残ったアンケート記載を紹介しましょう。～親族の「夢よ再び」という患者への想いに対して現状を適切に説明し、動揺する心をうまく導いてゆくことの必要性を感じています～(高齢者施設スタッフ)。今後も共和病院地域医療フォーラムは年1回、認知症勉強会は10カ月周期で鋭意開催します。認知症の知識を渴望しているあなたとは、2008年1月頃(予定)にまた会場でお会いしましょう!

地域医療フォーラムに参加して

C-1病棟課長 鈴木 博志

私は平成17年1月より認知症疾患治療病棟で勤務しています。

病棟は「認知症」を対象にしている病棟です。この中でまず考えたのは「自分がやるべきことは?」ということから始まりました。大事なことは「誰の為に何をすべきなのか?」ということでした。何も知らなかった私には当時の自分の限界を知るいい機会になり



ました。当初は教科書にのっている“失見当識”“記憶障害”“感情障害”などの概念で捉えようと精一杯だったと思います。ただ、この2年半で感じられるものは「純粋な人と人の繋がり」であるような気がします。

病棟にみえる方たちは長い歴史の中で人生を精一杯生きてきて、今、「認知症」という病に侵されています。そして、その症状が問題になり入院しています。病によって認識がまばらになった状態であっても自分の誇りを失わないことで、またそういう方たちの本来の姿を周りが正しく認識できないことで、本人も周りも生きにくく



なっている状態なのだと思います。

今回、フォーラムに参加させて頂き、各方面の方々と意見を交わす事が出来ました。地域には多くの認知症のサポートをしてくれている方がいることに素直に嬉しくなりました。認知症は脳の神経細胞ネットワークの崩壊により様々な環境、心理の因子を含んで症状が起きています。本人たちの途切れてしまった脳神経ネットワークの部分をこの地域のネットワークで支えていければと感じました。

その中で「認知症であっても豊かに暮していける」という病棟目標を持って、高齢者の方々がどんな状況であっても個人の尊厳を保て、さらにその存在を認めてもらえる病棟にするために、まだまだ未熟な私ですが人生の大先輩に敬意を持ち関わって行きたいと思います。



こんにちは! 保育所「たんぽぽ」 です!



保育所「たんぽぽ」には、元気いっぱいの男の子・女の子が通っています。天気の良い日は散歩にでかけます。池のコイ、野原のたんぽぽ・ダンゴムシ、新幹線やショベルカー、見るもの見るものが子ども達にとって発見と感動の連続です。毎日の生活の中で、子どもたちの心身が健やかに成長できるように願いながら保育しています。保育士は3名。主任の石川奈津美、若さ満点の奥村由香里、ママさん先生の山田しのか。フレッシュな顔ぶれで子ども達に負けない笑顔と元気で頑張っています。

子ども達やスタッフも、保育所に来てくれる人や近所の人たちと触れ合うことをとても喜び、感謝しています。今後とも、よろしくお願いいたします。



★1日の流れ★
8:00～ 入所
8:30～ おやつ
9:00～ 散歩
10:30～ 歌・紙芝居
11:00～ 昼食
12:30～ 昼寝
15:30～ おやつ
16:00～ 自由遊び
17:20～ 退所

編集後記



梅雨なのに雨は多くなく、水不足が心配です。今年の夏は暑くなりそうですね。クーラーをつけない我が家で、ぐったりしている今日この頃です。

「メタボリックシンドローム」が巷で取り上げられ、年齢的にも中年となり、こうしたことに無関心ではいられません。今まで以上に、血圧、体重、ウエストサイズを気にするようになりました。ですが、「健康のために何かする」とか“不健康な事はしない”

試験合格者 のお知らせ

平成18年度・内科勉強会の総合まとめ試験が平成19年4月25日に実施されました。忙しい勤務の合間をぬって、毎週水曜日、午後5時30分から約1時間、内科全般について一生懸命に勉強され、今年度も3名の方が優秀な成績で合格されました。



写真は向かって左から准看護師・木村智子、介護職員・松浦公恵、内科勉強会講師・保原怜子、薬剤師・濱島由佳梨です。また勉強会の仲間である介護職員・甲田きくゑが介護福祉士試験に合格、介護職員・臼井公一が名古屋市立中央看護専門学校に合格にしたことも大きな喜びの一つです。正しい知識が良い医療に結びつけられるように、そんな病院を目指しています。

内科医師 保原 怜子

というのは、私の性分にあいません。

ところで、通販で話題になったエクササイズをひそかに(?)時間があるときにやっています。少しの時間ですが、ぐったりした体に鞭をうち、汗をいっぱいかきながらやっています。

今のところ体重や体型の変化がほとんどなくても、やる気になるのは映像に出てくる強烈なキャラクターのインストラクターと、終わった後のビールがとてもおいしいからと思います。(Y.K.)

メタボリック シンドローム

最近、テレビや新聞
などによく登場する言

葉です。『近頃ちょっと太め』、『血圧が高い』、『健康診断でコレステロールが高いと言われた』、『糖尿病が心配』、そんな方にはぜひ注目して頂きたいテーマです。

メタボリックシンドロームはウエストサイズ、中性脂肪、HDL-コレステロール、血圧、空腹時血糖の値から診断されます。ウエストサイズが男性では85cm以上、女性では90cm以上で、次の3項目の中で2項目以上あるとメタボリックシンドロームと診断されます。

- ① 中性脂肪150mg/dL以上かつ、
またはHDLコレステロール40mg/dL未満
- ② 収縮期血圧130mmHg以上 かつ、
または拡張期血圧85mmHg以上
- ③ 空腹時血糖110mg/dL以上

生活習慣の欧米化に伴って、近年、肥満人口が増加しています。肥満、特に内臓脂肪の増加が高血圧、高脂血症、糖尿病などの大きな危険因子となり、疾病への『初めの一步』となります。そこで、メタボリックシンドローム診断の最初にある『ウエストサイズ測定』が内臓脂肪の量を推測するための重要な鍵となるわけです。また高血圧、高脂血症、糖尿

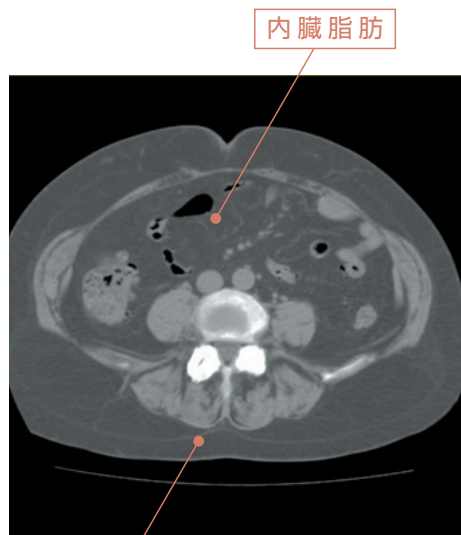
病は動脈硬化を進行させ、血管の障害で

起きる狭心症、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血など生命にかかわる重大な疾患を誘発します。

メタボリックシンドロームに陥らない第一の関門は、食事習慣、嗜好品、運動などの生活習慣を改め、まずは肥満対策です。

身長から割り出した標準体重[22×身長(m)×身長(m)]を参考にして、肥満改善に努めましょう。

当院ではメタボリックシンドローム教室を開催し、肥満対策に努めております。詳しくは外来看護師にお尋ね下さい。



内臓脂肪

皮下脂肪



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

- 私たちが目指す『優しい医療』とは!
- 患者様に安心と満足を提供する医療
 - 良質且つ効率的な医療の提供
 - 患者様へのサービスの充実
- 私たちが目指す『楽しい職場』とは!
- 毎日の出勤が楽しくなる職場
 - 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
 - 職員の満足が患者様へ反映される職場

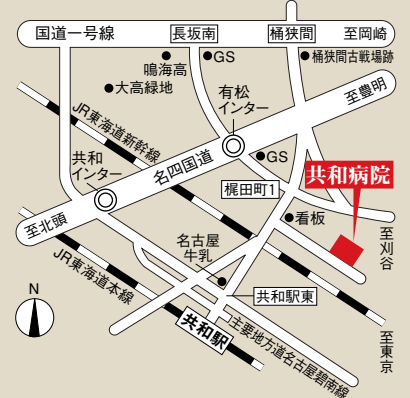
基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**
愛知県大府市梶田町2-123
TEL.0562-46-2222(代)
URL <http://www.kyowa.or.jp/>

俳句コーナー

名譽院長
加藤 邦之助

涼しさや
蚊帳の中より
和歌の浦
漱石

修善寺の大患にて東京長与病院より八ヶ月ぶりに退院した明治四十四年二月でありましたが、その八月には大阪朝日新聞社主催の講演会に出た後、明石、和歌山、堺と巡回して大阪に帰って胃潰瘍再発のため湯川病院に九月中旬まで入院していました。明石で一緒だった長谷川如是閑が見舞いに来て「俺が飯蛸は沢山食べた消化がわるいからやめておけと忠告したのに、パクパクと盛んに食べたから罰が当たったのだ」と云ったら漱石は胃の痛みをこらえながら「これは飯蛸のせいではない」と頑張ったそうです。和歌の浦の名産は飯蛸で、この好物を食べて泊まった明石の夜の句でしょう。冷房の未だ無かった座敷に蚊帳を吊って障子戸を明け放った彼方に月にきらめく海の風が通ってくる風情ははずばらしいが、今はもうみられませんね。好物の飯蛸の句五句、名産の様にはうまくありません。